土田のぶよし 通信

発行　土田のぶよし
携帯　090-2834-8861
Mail　nobut2001@yahoo.co.jp

越前和紙の周知
書に焦点、書道のまち「越前市」へ

日本語は、漢字、平仮名、片仮名という多種の言語形態を持ちます。この特有の言語文化を継承してきたのは、毛筆の文化であり、書道です。「日本人の美意識」、「不均整の価値」、「空白の間」を大切にしています。「文字」は、意思伝達の手段として使われ、西洋ではその領域に留まっています。しかし、東洋では、文字の造形にこだわり、いかに美しく書き表すか、という点を追求しています。「文字」はただの「意思伝達手段」の領域を超え、芸術としての発展を遂げました。越前市では、この書道文化が根付いています。「越前市を書道の街に」と、半世紀以上の活動がされてきています。
山田市長は、ユネスコの無形文化遺産(右記)を機に、「書」「和紙」に焦点を当て、本市の伝統文化や歴史的な価値を国内外に発信していく旨、９月議会で表明しました。

越前市は書道文化が根付いている。写真は第68回洗心書道展(シピィ)(土田尚春代表)

「書道」文化がユネスコ無形文化遺産登録

文化庁は、「和紙」に加え、筆や墨などを使う「書道」を、ユネスコの無形文化遺産に提案することを決めました。日本の文化の深みを世界に広く発信していく観点から、最もふさわしいとの判断です。ユネスコの審査は、2年後の2026年11月ごろの見通しです。

人口減少・自治体消滅の危機
越前市のかじ取り

民間組織「人口戦略会議」は、将来的に「消滅の可能性がある」市町村を公表しました。今後の３０年間で、２０～３０代女性が半数以下になるとの推計が根拠です。　「消滅の可能性」がある福井県内の自治体は、あわら、大野、勝山、越前町、池田、南越前、若狭、高浜の８市町で、県内市町の４７％に当たります。本市も他人ごとではありません。
未来の人口は、20代から30代の女性の増減がカギです。増やすには、いや、減らさないためにはどうしたらよいか。女性たちが、地方を去る理由、戻らない理由を聞き、住みたいまちへの改善が必要です。
ひとつには、女性の地方での生きづらさ。
頭から押さえつけられている閉塞感。
改善が必要です。

自治体４割「消滅可能性」　人口戦略会議　県内は８市町

県内市町の将来推計人口（人口戦略会議による）

	2050年 総人口	2050年 20～30代女性	20～30代女性増減率(2020→2050)	増減率の前回試算との比較
福井市	213,712	18,150	▼29.1%	△ 9.8
あわら市	17,958	1,194	▼51.1%	△ 6.1
坂井市	67,141	5,073	▼40.1%	▼ 2.6
勝山市	12,892	814	▼53.0%	△ 5.2
大野市	17,078	961	▼59.9%	△ 2.9
鯖江市	58,749	5,000	▼25.4%	△ 1.6
越前市	59,291	4,601	▼42.8%	△ 3.5
敦賀市	47,585	3,533	▼39.6%	△ 3.1
小浜市	21,212	1,503	▼39.6%	△11.1
永平寺町	13,325	1,216	▼39.0%	▼ 2.5
越前町	11,813	695	▼54.8%	▼12.7
池田町	1,138	45	▼72.0%	▼ 1.0
南越前町	5,368	327	▼57.4%	▼ 9.4
美浜町	5,803	369	▼49.0%	△10.2
若狭町	7,779	436	▼55.1%	▼ 4.5
おおい町	5,252	364	▼39.1%	△13.4
高浜町	6,789	325	▼56.0%	△ 6.1

※背景が青色の8市町は将来的に「消滅の可能性がある」

自治体4割「消滅可能性」

「消滅の可能性」がある県内自治体は、あわら、大野、勝山、越前町、池田、南越前、若狭、高浜の８市町　　福井新聞記事より抜粋

源氏物語の執筆に必要な「墨」「硯」「筆、「越前和紙」
「大河ドラマ館」に越前和紙のシーン
豊かな暮らしに「文化の力」

大河ドラマ「光る君へ」の「大河ドラマ館」にてこの度、物語を執筆しようとする式部の下に越前和紙が届いたシーンの再現展示が追加されました。土田のぶよしの、提案に基づく設置です。大河ドラマ館に、硯、墨、筆と共に「越前和紙」の現物の展示を提案しました。
吉高由里子さん演じる式部は、「越前には美しい紙があります。わたしもいつか、あんな美しい紙に歌や物語を書いてみたい。」なんとも、ありがたいセリフです。そして、式部は、ドラマの中で、「越前和紙」に源氏物語を書き始めました。
手すきの越前和紙は、本物が持つ質感の違いを感じます。私の父は、書家(土田帆山)で、この和紙を重用していました。

越前和紙が届いたシーンの再現展示
「大河ドラマ館」

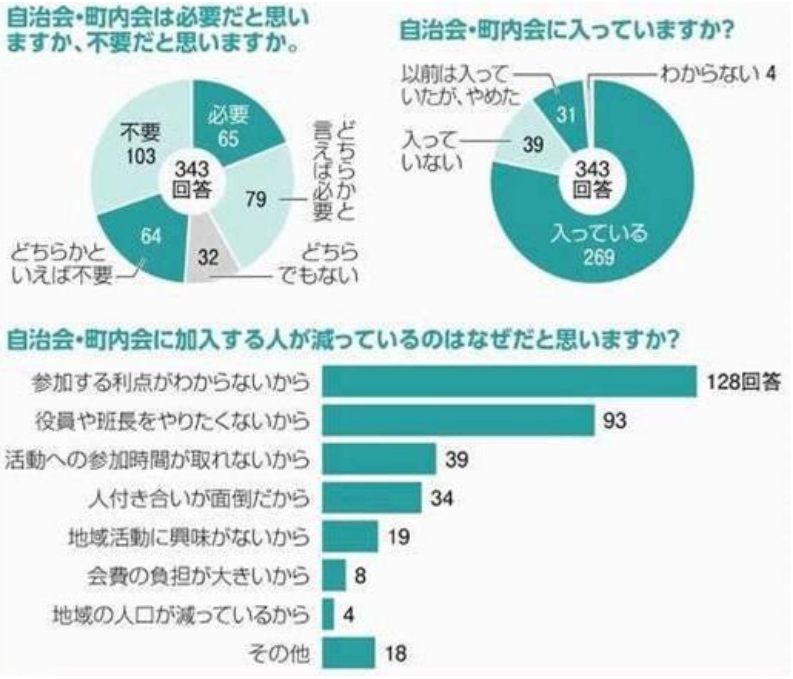
越前市紙の文化博物館にて、「Yumi　KATSURA　和紙ドレス展～越前和紙の可能性～」が、開催されています。(令和６年12月9日まで開催)

ファッションデザイナー桂由美さん(亡令和6年4月)が、越前和紙で制作したドレスを集めた特別展です。日本の伝統美とともに、和紙の可能性を世界に伝えた独創的なドレス１２着が披露されており、見ごたえ十分です。
ドレスの素材となった越前和紙の制作は、いずれも長田製紙所（同市大滝町）が担当されました。
長田和也社長は、「自分の漉いた和紙がこのように使われることに感激している。和紙にはまだまだ可能性がある。」と、コメントしています。
土田のぶよしは、五箇の和紙が、このドレスをはじめ新しい分野で、世界に称賛されるに違いないと近未来の姿を捉えました。

越前和紙の里　紙の文化博物館特別展　Yumi　KATSURA和紙ドレス展

町内会が岐路　担い手不足

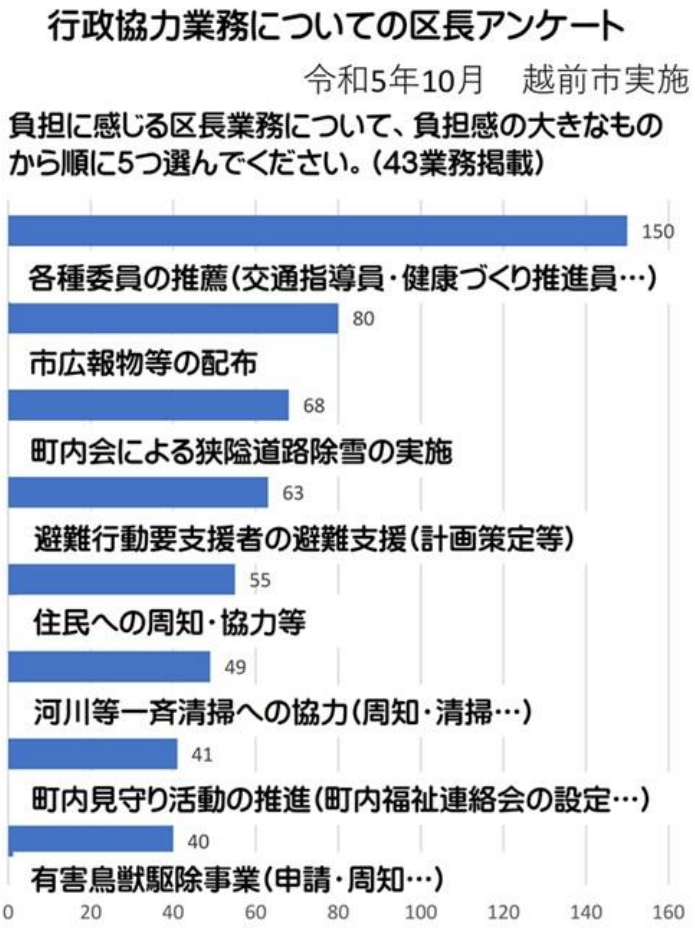
町内会が岐路に立っています。加入率が下がっているのは、自治力のない都会の話と思っていましたが、本市でも危惧されます。次期区長をと期待されていた方が、定年延長で困難になったりと、ますます担い手が不足しています。
価値観や生活様式が多様化する中で、世代間のギャップも生まれています。
越前市の町内会の世帯加入率は、市が昨年１０月に行った区長アンケートで回答が得られた１８１区の集計では、９３・１％。全体の約６割の町内会は、全世帯が加入してます。一方、国高、西、王子保の各地区では、加入率７０％台にとどまる町内会が複数ありました。記述回答では「町内の行事に関心がなく、意識の向上や参加呼びかけに苦労している」といった実情が報告されました。



朝日新聞記事より抜粋

町内会の自治の尊重　行政協力依頼業務の見直し

区長を行政の下請け機関のごとく、便利に都合よく使い過ぎてはいないか、と議会で質問しました。
前述のアンケートでは、区長が負担に感じる市からの依頼業務のトップは、各種委員の推薦です。民生委員・児童委員、福祉推進員、交通指導員‥などです。区長は、そのたびごとに、頭を下げお願いして回ることになりますが、かつてに比べ、快く役を受けてくれる方は、そう簡単にはいません。区長負担の軽減が求められます。
また、2番目に区長の負担感の高いものが、「市広報物の等の配布」です。土田のぶよしは、紙ベースではなく、広報のデジタル化を求めました。
高齢者であっても、かなりの方がスマホを持っています。当面は、紙媒体とデジタルとの併用。近い将来、デジタルを基本とし、区長配布の負担をなくすことを提案しました。

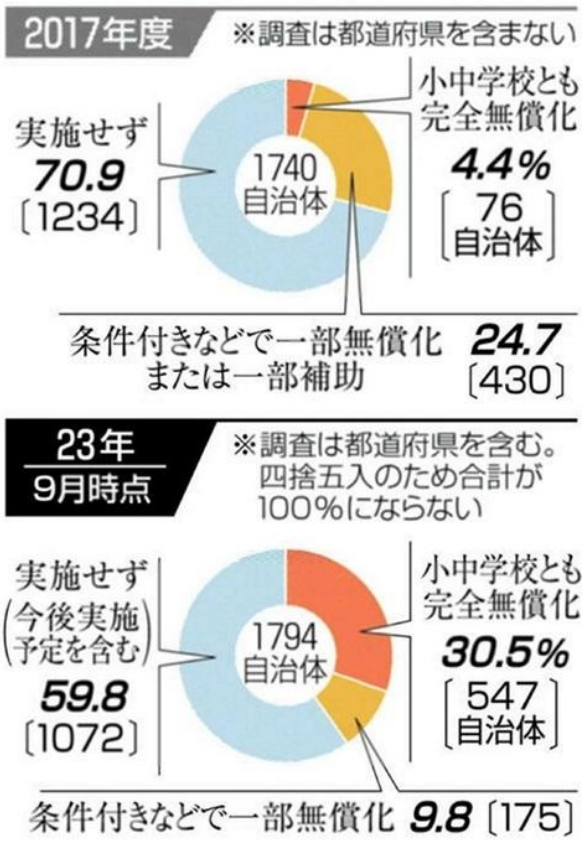


学校給食の無償化を

土田のぶよしは、学校給食の無償化の推進について、子育て支援、少子化対策の観点から、市会本会議で、質問しました。
山田市長は、国主導による実現を求めると応えました。市が独自で実施するには、財源が壁です。来年度の重要要望に盛り込み、国に要望するとのことです。

越前市の小学校の給食費は１食２７８円です。無償化には年間約２億２千万円が必要です。
山田市長は、現在の保護者の負担が公費支出に置き換わることで

「地元に残る子どもたちが無償化の経費を将来負担することがないような財政運営」を考える必要があるとし、国主導の実現を県とともに求めていくとしました。
国は、今日までは、学校給食無償化について、課題を整理するとしてきました。
今回の衆議院選挙では、給食費を公費で賄うとする政党の公約が増えています。また、この数年で大きく進展し、昨秋時点で自治体の３割が公立小中学校での無償化を実現しています。

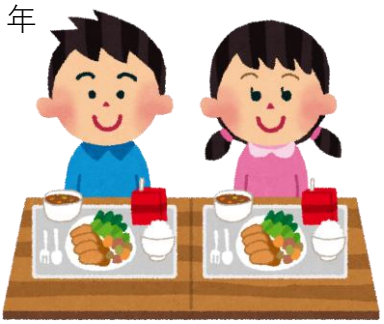


小中学校の給食を無償化した自治体〈文部科学省による〉

給食の無償化　県内5市町にて実施(6年６月現在)　福井新聞記事より抜粋

県内では永平寺町、南越前町、越前町、高浜町が無償化を実施。大野市が一部無償化しています。公費による一部負担は、越前市など１２市町が行っています。文部科学省調査によると、公立小中学校で条件を設けずに給食を無償提供する自治体が、２０２３年９月時点で３０・５％。１７年度に行った同様の調査では４・４％で、７倍ほどに大きく増えています。

学校給食は、義務教育の一環です。東京都のように財政か裕福なところは、無償で、財政にゆとりがない自治体は、有償では困ります。ますます格差が広がりかねません。



土田のぶよしは、国主導による無償化が望まれますが、市が先駆けて実施し、施策をリードしたいと思います。

今回の衆議院議員総選挙では、福井２区は、元自民党の前職に加え、元自民と維新の元職２人、新人２名の５名が立候補しました。
政治への不信。
政治家への不信。
政党への不信。
民主主義社会にて、これほど深刻な問題はありません。
私は、立憲民主党の新人「つじ英之」さんを応援させていただきました。今回の一番のテーマは、信頼。「つじ英之」さんは、信頼できる人です。見事当選しました。
信頼できる政治は大切です。
本市の投票率は、58.5%
前回は、54.8%
向上しています。
「どうせ、変わらない。」
そうでしょうか。
一人一人の行動で変わります。
あきらめなくてよかった。

●　おわりに